

令和4年度 学校関係者評価

高知県立幡多看護専門学校

1. 日時：令和5年6月19日 10:00～10:40
2. 場所：幡多看護専門学校 校長室
3. 学校関係者評価委員
 - 1) 幡多けんみん病院 経営事業部長 2) 幡多けんみん病院 看護部長
4. 高知県立幡多看護専門学校 出席者
 - 1) 副校長 2) 事務長 3) 教務主任
5. 評価対象：令和4年度 重点項目の取組状況
6. 資料：1) 学校関係者評価委員会実施要領 2) 自己評価書 3) その他関係資料
7. 評価基準：4段階評価及び総評
 - 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
 - 3：達成できている（達成がみられる）
 - 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
 - 1：全くできていない（全く成果がみられていない）

評価結果

評価結果

1 地域に貢献できる質の高い看護師の養成をめざす	自己評価	他者評価
①各学年の指導方針及び実施計画に基づき、個々の学生の状況に対応した指導、学習支援を行う。	3	3
②実習受け入れ先である医療機関や施設と連携を深めるとともに、実習指導力を高め効果的な臨地実習を実施する。	3	3
③受験者全員が、看護師国家試験に合格する。	4	4
④卒業生の県内定着率80.0%を目指す。	2	3
自己評価 ①支援チーム体制を継続し、実習日以外の日には各学年のチームで始業前にミーティングを実施し、情報共有を行い、学生状況、教員の業務内容の把握をし協力することができた。又、学年を超えて協力体制がとれていた。 ②新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習に行けない事が多かった。実習施設と適宜連絡調整を行い連携はとれていた。臨地での実習が可能か不可かの判断の予測をしながら、実習担当教員も学内での実習の準備を実施することができた。 ③チューター制を継続し、模擬試験で成績が下位の学生を個別に指導を行った。成		

	<p>績面だけではなく、メンタル面での支援も同時に行った。必要時は、保護者とも連携をとりながら様々な側面から個別に対応を行った。受験者全員が看護師国家試験に合格できた。(27名)</p> <p>④入学時より、県奨学金の活用の推奨等を行っている。又、授業の中でも高知県の医療環境や、高知県（特に県奨学金が付与される地域）の看護師が不足していることを伝えた。</p> <p>しかし、令和4年度の県内就職率は70.4%と80%に達することはできなかった。（資料1参照）令和5年4月1日時点で、就職が3名決定していないことの要因も大きいと考える。今後も県奨学金制度利用の推進等を行い、高知県で勤務する人材の育成を行う。</p>
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実習がままならない中、オンライン授業等や成績不振者への支援等により国家試験合格率100%を達成していることは十分評価出来る。 ・生徒に占める県内出身率が81.5%（R4卒業生27名中22名）の中での県内就職率目標80%はハードルが高いと思われる。県出身生徒のうちの県内就職率で目標値を定めるなど、目標値の見直しを検討すべきと思われる。

2 教員の教育力の向上を図る		自己評価	他者評価
	①研究授業や日々の教務・実習ミーティングを計画的に実施し、教育内容・教育方法の精選及び教員自身のリフレクションを通し、教育力を高める。	2	2
	②学内で、定期的に学習できる場の環境を整備する	3	4
	③チーム制を活用し、チームで課題に取り組み、他のチームと意見交換を行う。	3	3
自己評価	<p>①研究授業については、それぞれが学びとなり得たことを自分の授業に取り入れることができている。教育は継続していくことが重要であるため、それぞれが、自身の課題を見だし取り組むことが必要。そのため組織としてできること、個人でできることの意見を抽出して教育力向上のために取り組む必要がある。</p> <p>②コロナ感染の影響で、院外での研修参加が困難となりオンライン研修が主流となってきたため、NEO（インターネットでの学習環境）を導入したが、有効に利用できているかの検証が必要。すべての研修を勤務内で受講することは困難ではあるが、意図的に短時間でも時間内に実施できる学習環境を整備していく。</p> <p>③日々ミーティングを実施することで、タイムリーに課題に取り組むことができ</p>		

	た。全員の教員がそろう日は少ないが、必要事項があればその都度情報共有を行った。
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での授業のあり方について翻弄された年度であったことを考慮すれば、出来る努力はされており一定評価したい。 ・一方、コロナ禍で後回しになっていた取り組み等の検討・実践に期待したい。

3 適正な学校経営・管理を実施する		自己評価	他者評価
①自己点検・自己評価により抽出された主要課題については改善計画に基づき実施していく。(自己点検・自己評価委員会)	3	3	
②新カリキュラムの意図を全教員が理解し、適切に運営する。	3	3	
③南海トラフ地震対策は急務であり、学生の安全・防災教育の実施並びに評価を行う。(学校防災委員会)	2	2	
④新型コロナウイルス感染症予防策を周知、継続する。	3	3	
⑤臨地実習や対面授業が実施出来ない場合は、学習内容や方法及び進度を考慮し、全学生が単位取得し、進級・卒業できるように努める。	3	3	
自己評価	<p>①昨年度実施された第三者評価で出された検討課題について</p> <p>○受験生減少において、引き続き受験者数が増える取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの実施：4回実施予定であったが、コロナ感染症にて予定日を変更したり実施回数を3回に変更した。 ・高校訪問：幡多地域の進路担当の教員及び学生に説明会の実施 ・幡多地域の市町村の広報誌に、受験日の掲載依頼 ・四万十市（大橋通り）の電光掲示板に、オープンキャンパスの日程を掲示 ・高知県下の全高校にパンフレットと入試要項を配布 ・業者の進路ガイダンスに参加 <p>②シラバス・実習要項の点検、修正を全教員で担当を決め実施した。新カリキュラムについて理解できているかの検証はできていないが、各教員が担当したところについては追加・修正することができた。実習の評価についても一部修正できた。引き続き、検証していく。</p> <p>③学生の安否確認システムの整備、新入生の防災グッズの購入、進路非難マップを</p>		

	<p>作成した。通学路の危険箇所や避難場所、津波危険箇所を再確認することができた。防災マニュアルの評価はできていないため、今後職員も含めて災害への意識を高めていく必要がある。</p> <p>④実習や国家試験前などは各学年が交流しないように可能な範囲で動線を区別した。</p> <p>⑤やむを得ず自宅待機となった学生に対して、講師の協力も得ながらオンライン授業等を実施し、コロナ感染の影響で単位取得できない事例は発生しなかった。</p>
<p>総 評</p>	<p>・人口減少・少子化の中でいかに看護学生を確保するかは大きな課題。地域課題の中での看護師という職業の重要性、合格率 100%等の貴校の特色を前面に、高校生等へのアプローチに取り組んでいただきたい。</p>